

地方創生関連交付金等事業評価シート

資料4-2

事業名	美術館を核とした賑わい創出・交流人口拡大事業			事業期間	平成 28 年度 ~ 32 年度					
				所管課	久保惣記念美術館					
交付金事業の概要	<p>○美術館を中心としたエリア価値向上のため、活躍の場を求めるアーティストや地域住民、近隣店舗と協働、連携し、美術館所蔵品等に纏わるパブリックアートを制作し、まちなかに展示する。</p> <p>○市民が文化芸術に気軽に触れ合えるアートイベントを関係者と連携して実施するほか、地域の飲食店等を地域魅力の核として育成するとともに、美術館に隣接する公園、広場等を活用し、地域交流の促進、まちの賑わいの創出につなげる。</p> <p>○交通アクセス、利便性の向上を図るため、国道480号バイパスの開通を機に試験的に「和泉・かつらぎ連絡バス」を臨時運行する。</p>									
事業の背景及び目的	<p>○和泉市久保惣記念美術館周辺地域は、古くからの街並と新たに形成された街並が混在する閑静な環境にあり、地域内には、市民活動拠点の複合施設である和泉シティプラザやカフェ、レストラン等が集積する地区がある。</p> <p>○また、桃山学院大学のほか、桜・紅葉の名所として知られる松尾寺などの景勝地が点在している。</p> <p>○こうした中、美術館を中心に他の魅力的なスポットを複合的にブランディングしていく「和泉・久保惣ミュージアムタウン構想」を推進し、新旧の魅力が融合する観光の振興を図る。</p>									
予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	委託料	6,000,000				委託料	5,971,320			
	計					6,000,000	計			
平成29年度の取組	取組①名称 : 久保惣記念美術館ホームページ等の多言語化									
	取組の内容	<p>○久保惣記念美術館のホームページ、パンフレット及び館内案内板を多言語化対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ: 2か国語(日・英) ・パンフレット: 6か国語(日・英・中・韓・仏・西) ・案内板: 4か国語(日・英・中・韓) <p>○ホームページは、スマートフォンでの閲覧にも適した表示に整備した。</p>			取組の意図・目的	<p>○広報の多言語化により、訪日外国人等の来館を促進する。</p> <p>○幅広い年代の閲覧に対応するサイトを構築し、美術館のアピールを推進する。</p>				
		取組の実績・成果	<p>○ホームページは、今後の翻訳コスト等の運用経費を勘案し、美術館の基本的な情報と一年に一度更新する年間の展覧会情報のみを英語化し、長期的な運用が可能な環境を整えた。</p> <p>○英語以外の外国語話者に対しても美術館をアピールできるよう、多言語化したパンフレットをホームページに掲載した。</p> <p>○各国語版のパンフレットを、市の内外を問わず交流のある国公立美術館、市立美術館、研究機関等へ広く配布した。</p>							

KPI (重要業績評価指標)	交付金対象事業	KPI① : エリア内主要施設への来訪者数			
		現状値 (平成27年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成32年度)
		413,220	486,300	447,162	612,000
		KPI② : 和泉市久保惣記念美術館の年間来館者数			
		現状値 (平成27年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成32年度)
		23,161	27,000	43,925	30,000
		KPI③ : 新規店舗等開業数			
		現状値 (平成28年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成32年度)
		0	0	0	3
総合戦略における位置付け	基本目標	年間観光客数			
	数値目標	H22 949,029人 → H31 1,600,000人			
所管課の評価	平成29年度における取組の効果	評価	評価理由		
		B 効果的だった	<p>○平成29年10月に開館35周年記念事業として開催した特別展「ピカソと日本美術」においては、来館者が2万人を超えるなど、美術館への注目が集まる中、これまで美術館を訪れたことのない顧客層に対して美術館をアピールできる広報物(ホームページ、パンフレット)を作成できた意義は大きい。</p> <p>○ホームページは、既存の顧客層である高齢者にとって、わかりやすく、また新規顧客層の取り込みにつなげることができるデザインにすることができた。</p>		
	目標値達成状況にかかわる要因分析	達成状況	評価理由		
	2 達成	<p>○特別展「ピカソと日本美術」が好評であったため、美術館の年間来館者数について、目標値を達成することができた。</p>			
交付金対象事業の必要性	評価	評価理由			
	③維持(一部見直し)	<p>○ホームページやパンフレットの多言語化により、今後の訪日外国人の来館を期待できることから、作成した広報ツールについては、定期的に翻訳語の更新を行い、継続的な活用を図る。</p> <p>○展覧会企画をはじめ、音楽ホールや茶室などの美術館内施設を活用したイベントを実施するなど、来館者の増加に向けた事業を多角的に展開し、ミュージアムタウンの取り組みを推進する。</p>			
平成29年度の取組成果・効果を踏まえた今後の事業展開	<p>【平成30年度の事業展開】</p> <p>○各国語版のパンフレットをこれまで配布した国内の美術館等に加え、交流のある海外の美術館、研究所、大学等(国立故宮博物院、ケルン東洋美術館、インディアナポリス美術館等)へも広く配布するとともに、ホームページでもバイリンガルの対応を行っていることを広く周知し、訪日外国人等の来館を促進する。</p> <p>○ホームページに解析ツールを設置し、アクセスがどのような地域、国からなされているかを把握することで、取り組みの成果を継続的に観測し、その結果を今後のホームページ運営に反映させていく。</p> <p>【平成31年度以降の事業展開】</p> <p>○美術館敷地内の音楽ホールや市民ギャラリーでのイベントを充実するほか、茶室を修繕し、活用の幅を広げるなど、美術館の独自の魅力をアピールできるツールをさらに強化する。展覧会と連動したコンサートや茶会などの美術館施設を活かした独自のイベントを実施することで、地域の核となる美術館の魅力をアピールし、来訪を促進する。</p>				